

とによって、産業界でも修了生の活用・評価が適切に行われ、修了生のキャリアアップ・キャリアチェンジが実現されることが期待できる。

3.6.1 学習成果の記録・評価の取り組み

本学情報アーキテクチャ専攻では、修得知識体系を大分類 10 項目、中分類 24 項目、小分類約 120 項目から構成している。この分類には情報アーキテクチャ専攻の対象領域での現段階の標準指標に相当する、(独)情報処理推進機構 (IPA) の共通キャリア・スキルフレームワーク (CCSF) を使っている。

知識単位は授業科目の履修によって修得できる。授業科目ごとに単位取得によって修得できる知識単位 (小分類) 及びレベルを設定し、シラバスの「目的・狙い」の項目に修得できる知識単位及びレベルが書かれている。

修得できる知識単位:

- (A1)K-01-01-03 情報に関する理論(レベル 3) 計算量
- (A1)K-01-02-01 データ構造(レベル 4) スタックとキュー、リスト、配列、木構造、2 分木
- (A1)K-01-02-02 アルゴリズム(レベル 4) 整列、併合、探索、再帰、文字列処理、アルゴリズム設計
- (A1)K-01-02-03 プログラミング(レベル 4) プログラミング作法、プログラム構造、データ型、文法

ここに示されるレベルは以下のように設定されている。

| レベル | 内容 |
|-----|---|
| 4 | 対象分野での知識・スキルを確立し、対象業務を行うことができる。下位レベルの育成を担当することができ、今後、対象分野の牽引に寄与する準備を行うことが期待される。 ITSS4 以上 |
| 3 | 対象分野の知識・スキルを確立し、対象業務を行うことができる。 ITSS 3 相当 |
| 2 | 対象分野の知識・スキルをある程度確立している。上位レベルの指導下で対象業務を行うことができる。 ITSS 2 相当 |

各科目のシラバスに示されたレベルは成績評価4(80点)以上に相当し、成績評価4未満のときは以下に従って換算される。

| 各科目のシラバスで 設定されたレベル | 科目履修による成績 | | | | | |
|-----------------------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 3.0 | 4.0 | 4.0 |
| 3 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 2.5 | 3.0 | 3.0 |
| 2 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 |

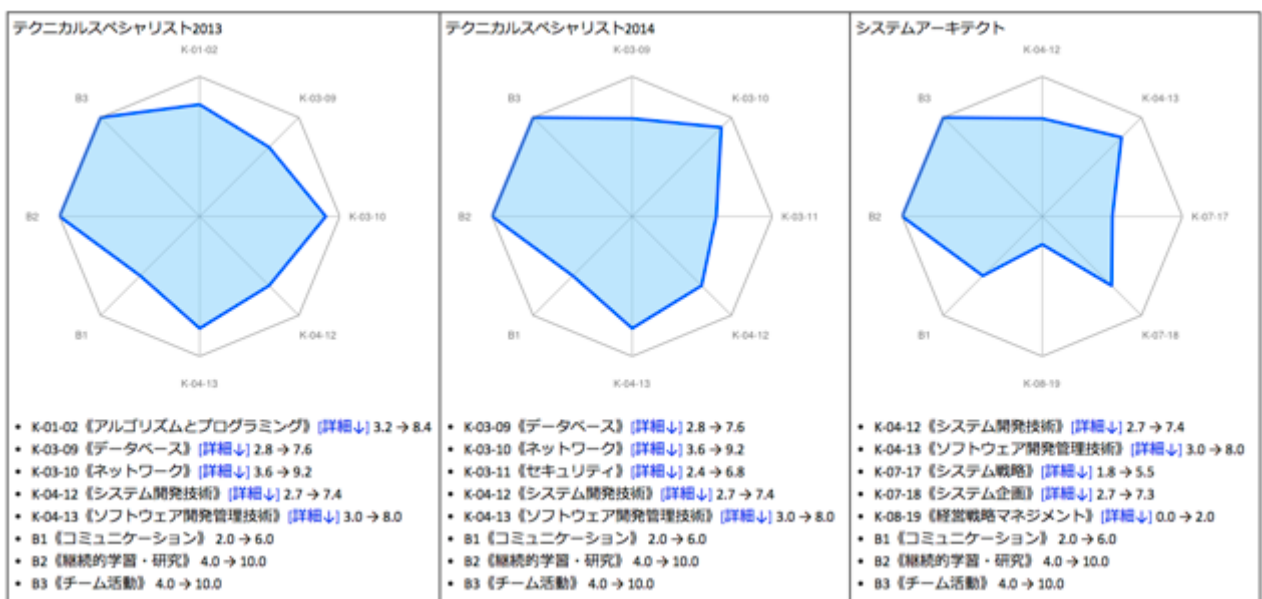
複数の科目から同じ知識単位(小分類)が修得できるが、集計時には知識単位(小分類)の最高値、中分類の知識単位の値は下位の知識単位(小分類)の値の平均値を使う。

しかし、実際には、この知識体系の約120存在する知識単位すべてを修得することは難しいため、情報アーキテクチャ専攻では、専門性を有する人材像(コース)ごとに中分類5項目及び約15科目程度の推奨科目を指定し、学生に重点的に学ぶことを推奨している。「事業アーキテクト」コースでは、以下に示す中分類5項目を指定している。この5項目は概ね「事業アーキテクト」が修得すべき知識単位を示しているが、CCSF自体は本来技術者のための標準指標であるため、若干不足している知識単位が存在する。したがって、今後、教育プログラムのカリキュラム及び各授業科目の内容の調整の段階で、独自の知識単位を設定する等の対処を行う計画である。

- K-07-17《システム戦略》
 - K-07-17-01 〈情報システム戦略〉
 - K-07-17-02 〈業務プロセス〉
 - K-07-17-03 〈ソリューションビジネス〉
 - K-07-17-04 〈システム活用促進・評価〉
- K-08-19《経営戦略マネジメント》
 - K-08-19-01 〈経営戦略手法〉
 - K-08-19-02 〈マーケティング〉
 - K-08-19-03 〈ビジネス戦略と目標・評価〉
 - K-08-19-04 〈経営管理システム〉
- K-08-21《ビジネスインダストリ》
 - K-08-21-01 〈ビジネスシステム〉
 - K-08-21-02 〈エンジニアリングシステム〉
 - K-08-21-03 〈e-ビジネス〉

- K-08-21-04 〈民生機器〉
- K-08-21-05 〈産業機器〉
- K-09-22《企業活動》
 - K-09-22-01 〈経営・組織論〉
 - K-09-22-02 〈OR・IE〉
 - K-09-22-03 〈会計・財務〉
- K-10-24《ビジネス知識》
 - K-10-24-01 〈顧客のビジネス知識〉

学生の到達度は、履修科目から専用の Web アプリケーションで随時に確認できる。以下に、Web アプリケーション (<http://03gekka.appspot.com/>) の画面例(抜粋)を示す。各知識単位(中分類)の最高値は4、最低値は0であるが、グラフではこれらを最高値10、最低値2に変換して描画している。



3.7 社会人学び直し啓発の仕組み

社会人学び直し啓発の仕組みとして、起業塾(学び直し啓発イベント、専門職コミュニティ)の企画及びWeb記事の掲載を行い、学び直しの機運醸成、学び直しの機会、環境整備に関する情報提供、また当事業の普及等を狙う。

3.7.1 起業塾

AIIT 起業塾は、当事業に関連し、IT・デザイン・マネジメント等を活用し、各種の産業分野で、新しい事業構築・問題解決を話題に議論する勉強会で、起業経験者、〇〇×IT・デザイン・マネジメントの先駆者等のゲスト講師による講演、ディスカッションから構成する。平成 28 年度に、年 4 回程度継続的に開催した。また、本学では、このほかに InfoTalk 等の類似のイベント(勉強会)を開催している。InfoTalk は平成 20 年から第 3 金曜に定例で開催し、平成 29 年 3 月に第 99 回を開催した。

《起業塾#6》

- 日時: 2016/07/31(日) 13:30-17:15(懇親会 17:30-19:30)
- 場所: AIIT 秋葉原サテライトキャンパス
- 内容: ファッションテック
- スケジュール 13:30-13:40 主催者挨拶
 - 13:40-14:20 講演①佐藤 貞行 氏(株式会社パルコ BOOSTER プロデューサー)
 - 14:25-15:05 講演②上森 久之 氏(公認会計士,ROOY Inc.(USA)日本代表,
株式会社ミニマル・テクノロジーズ COO)
 - 15:15-15:55 講演③長岡 夏未 氏(株式会社集英社ブランド事業部メディアプロデュース
セクション SPUR.JP ウェブプロデューサー)
 - 16:10-17:10 パネルディスカッション
コーディネーター: 亀井 省吾 氏(産業技術大学院大学 特任准教授)
パネラー: 登壇者全員
- 参加者数: 41 名(本学教職員含む)